

< オリエンテーション >**A . テーマ : 自然の諸問題から公共性へ キリスト教思想の視点から**

これまで本特殊講義では、過去4年間にわたって、「キリスト教思想における自然の諸問題」を取り上げてきたが、今年度は、「多元性」や「公共性」の問題へ向けた議論の展開が試みられる。これは、次の段階で、「宗教的多元性と公共性」というテーマを本格的に論じるための導入として位置付けられるものである。また、こうした問題の展開は、これまでの「宗教と科学」関係論をめぐる考察から生じたものであると同時に、現代のキリスト教思想の動向の中に位置付けることも可能である。具体的には、次のような問題が扱われる。

- 1 . 現代宗教学の基礎論についての体系的な考察。これには、宗教の概念規定、宗教批判、宗教的多元性という三つの問題群が含まれる。
- 2 . 現代の「宗教の神学」をめぐる代表的な立場について概観し、その論点と問題点を整理する。
- 3 . 宗教間対話との関連性という視点から、宗教的多元性とコミュニケーション論・公共性論との関わりを論じ、「宗教と科学」関係論との問題構造における並行性を解明する。

B . 講義の意図

< 昨年度の最終講義 + >

展望 - 自然神学の可能性 -

(1) 自然神学のまとめ

1 . 広義と狭義の自然神学

- ・ 自然的理性による (啓示に頼るには依拠しない) 宗教的な認識・知識
キリスト教外部に対する弁証とキリスト教内部における論争

異教と異端

コミュニケーション的合理性

他者との対話可能性

神学と諸科学との媒介

- ・ 自然を通しての神認識 (自然的理性による)
神の存在論証、デザイン神学
- ・ 広義の自然神学の特定の歴史的状況における具体化としての狭義の自然神学
その都度のコンテクストにおける新たな具体化の可能性

2 . 形而上学の役割

- ・ コミュニケーション合理性の基礎付け

神学との接点は「創造」

被造物とありかつ自然

自然的理性と自然

・ 広義の自然神学の基礎となる広義の形而上学と狭義の自然神学の基礎となる狭義の形而上学

広義の存在論と狭義の存在論

ギリシャ的な存在論に対する聖書的な思惟の明確化においても、存在論という用語を使用せざるを得ないというジレンマ、別の仕方の存在論

聖書的な存在論

人格的な存在論

ギリシャ的伝統に基づいて科学という用語を使用する限り、諸学の基礎論に対する名称は、存在論あるいは形而上学となる

・ 東アジアの状況における「自然神学」とその基礎付けはいかなる仕方で遂行できるか？

3. 自然神学から公共性へ

・ 神学から諸科学

・ キリスト教から諸宗教

・ コミュニケーション合理性は、公共性論を要求する

Alistair E. McGrath, *The Science of God. An Introduction to Scientific Theology*,

T & T Clark 2004

They (These elements of a scientific theology) are seamlessly intergated to yield a coherent vision of the theological enterprise, and a justification of its exsistence and methods in the face of modern and postmodern criticisms and anxieties.

The distinctive feature of a scientific theology is its critical yet positive use of the natural sciences as both comparator and helpmate for the theological task, seen against the backdrop of the intellectual engagement with reality as a whole. (12)

Christian theology is here conceived and presented as a legitimate coherent intellectual discipline, with its own sense of identity, place and purpose. A unitary understanding of reality ... they should accomodate themselves to the distinctive natures of those aspects of reality which they attempt to represent and depict.

This leads to one of the major themes of the vision that lies behind a scientific theology --- my deep longing to develop a *public* theology, capable of interacting with other disciplines on its own terms. A public theology is able to stand its own ground, while engaging in dialogue with others.

(13)

(2) 公共性論へ

・ 環境論：近代における社会的欲望の肥大化

資本主義的市場経済メカニズムの問題

・ 生命論：遺伝子差別、商品化という問題点

市場経済という背景

・ 「宗教と科学」関係論における現代の倫理的問いは、経済への反省を要求する

別の文明形態を目指して

- ・公共性の再構築
- 世俗化の帰結の捉え直し

Rosemary Radford Ruether, *Ecofeminism: The Challenge to Theology*

(Dieter T.Hessel and Rosemary Radford Ruether(eds.), *Christianity and Ecology*, Harvard University Press 2000)

ecofeminism: the interconnections between the domination of women and the domination of nature

Heather Eaton, Response to Rosemary Radford Ruether

To enlarge further the frameworks of interpretation, it is urgent that the Christian tradition not only engage in interreligious dialogue, but interpret itself in the light of the worlds' religions within a tapestry of revelations. We need to genuinely encounter other religious perspectives and allow ourselves and our theologies to be transformed by this process.

the emerging pluralist-correlational model for a theology of religions (117)

(3) 自然神学から公共神学へ

- ・方法論レベルでの連続性
モデル・隠喩・言語、コミュニケーション
- ・実践あるいは実践理論のレベル
コミュニケーション合理性の場としての自然神学は、公共神学への展開を求める
- ・近代／ポスト近代の文脈で

<文献>

1. 芦名定道 「日本の宗教状況と宗教間対話の可能性」, *Journal of the Institute of Asian Area Studies*, 釜山外国語大学 アジア地域研究所 2004年、1-18頁
2. 稲垣久和 『宗教と公共哲学 生活世界のスピリチュアリティ』東京大学出版会 2004年
3. 星川啓慈他 『現代世界と宗教の課題 宗教間対話と公共哲学』蒼天社出版 2005年
(なお、星川編の『現代世界と宗教の課題 宗教間対話と公共哲学』の内容に関しては、次の書評を参照。
芦名定道 「文献紹介：星川啓慈他 『現代世界と宗教の課題 宗教間対話と公共哲学』蒼天社出版」(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/user/sashina/sub14D15.pdf>))
4. 稲垣久和・金泰昌編 『公共哲学16 宗教から考える公共性』東京大学出版会 2006年
5. 安彦一恵・谷本光男編 『公共性の哲学を学ぶ人のために』世界思想社 2004年
6. 阿部美哉 『政教分離 日本とアメリカにみる宗教の政治性』サイマル出版 1989年
7. 山脇直司 『公共哲学とは何か』ちくま新書 2004年

C . 講義の予定

今年度は、自然神学から公共神学への移行の問題と、公共神学の基礎論としての宗教論を取り扱う。

オリエンテーション	4/14
導入1 平和の神学は可能か？	4/21
導入2 東アジア世界における宗教的寛容と公共性	4/28
1 自然神学から公共神学へ	前期
1 環境論とキリスト教思想 - 環境・経済・政治 -	
2 生命論とキリスト教思想 - 生命・経済・政治 -	
3 コミュニケーション論としての自然神学	
4 自然神学から公共神学へ	
2 現代宗教論	後期
1 宗教とは何か	
2 近代世界と宗教 - なぜ宗教か -	
3 宗教的多元性の諸問題	

D . 受講の注意

1 . 単位

年度末のレポート（後日、説明）

2 . 関連の演習と研究会

プロセス神学演習（金・5）

「宗教と科学」研究会

「アジアと宗教的多元性」研究会

「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会（本年度後期から）

COE研究会「多元的世界における寛容性についての研究」

宗教倫理学会